

セカンドハーベストジャ
パン(2HJ)に次いで国
内で2番目に大きいフード
バンク関西(兵庫県芦屋市)
は取り扱う食品の地産地消
を目標に掲げている。「地
元から出た規格外の食品は
地元で消費しよう」という
考えからだ、それだけで
はない。「遠くに運ぶとコ
ストがかかりフードバンク
の運営を圧迫しかねない」
との事情もある。

「理事長の藤田治
さん(61)はいう。活動を支えるのは主婦や
定年退職者、学生らからな
る約30人のボランティア。
地元企業を中心にスーパー
など20社から譲り受けた年
間約110トの食品を配送
した。たり仕分けしたりする作
業などを担当、配送などに
はフードバンクの車がない
ため個人所有の車を使う。
もちろん燃料代や高速料
金の実費はフードバンクか
ら出るが「資金が豊かでな
いためボランティアから理

フードバンク関西の運営
にかかる費用は2009年
が約350万円。そのうち
賛助会員(個人254人)
や正会員(個人22人と法人
1社)からの会費と寄付が
250万円。残りを民間財
団などからの助成金で賄っ
た。「これら助成金のおか
げで毎年何とかしのいでこ

フードバンク事情

④



行政との連携などについて話し合う
フードバンク関西のスタッフ会議

手探り 確保の資金の転運

「配送などに使うボランテ
ィアの車の燃料代もほとん
ど自腹というありさま。組
織の維持が難しくなってい
る」と話す。
「何とか運営を持続可能
なものにする方法はない
か」。そこで2HJが進め
ているのが「ある商品を買
えば売り上げの一部がフー
ドバンクに寄付される」仕
組みの導入。有機食品製造
販売会社との間で現在、発
売の準備を進めている。

2HJの趣旨に賛同した
有志が始めたセカンドハー
ベスト名古屋(名古屋市東
区)。「昨年1月設立にも
かわらず名称にセカンド
ハーベストを掲げたおかげ
で食品を集める活動は順
調」と事務局の本岡俊郎さ
ん(63)。09年は愛知県内
の22社から約50トを譲り受
け市内の路上生活者支援団
体などに配った。
しかし資金不足は顕著。

広角鋭角

「これが成功すれば企業
もうちも互いに利益を得ら
れるし、消費者の社会参加
を促す効果もあるだろう。
地方フードバンクのモデル
にもなるかもしれない。せ
ひ成功させたい」と意欲を
見せる。